

No.	文献名	ジャーナル名等	公表年	著者名	著者の所属機関	書誌情報	研究分野	原著/総説	海外評価書での引用の有無	ドシエでの引用の有無	in vivo (動物種) / in vitro	用量(mg/kg体重又はmg/kg体重/日)	NOAEL/NOEL	LOAEL/LOEL	Klimischコード	評価の目的との適合性に関する情報	備考	研究結果の分類	分類の判断理由
1	Consensus Diagnoses and Mode of Action for the Formation of Gastric Tumors in Rats Treated with the Chloroacetanilide Herbicides Alachlor and Butachlor	TOXICOLOGIC PATHOLOGY, 42(2), 386-402	2014	Furukawa, S et al	Nissan Chemical Corporation (Former Nissan Chemical Industries Ltd)	DOI: 10.1177/0192623313484106	発がん性	原著	-	○	ラット	-	-	-	区分bに該当するため不要	5.5.4/05 胃腫瘍の病理学専門家によるパネルミーティングによる再評価（ラット）としてドシエ掲載済	6-1-2	評価に使用しないデータ	・内容はドシエに収載された報告書から確認可能。
2	Chloroacetanilide-Induced Nasal Carcinogenesis in Rats	Book SeriesCancer Etiology Diagnosis and Treatments, 427-434	2010	Genter, MB et al	Univ Cincinnati	-	発がん性	総説	-	-	ラット	-	-	-	区分bに該当するため不要	クロロアセトアニリド除草剤のラット鼻部腫瘍の発がん機序に関するレビュー、リスク評価の際の補足データとして利用可能と想定。	6-1-3	評価に使用しないデータ	・総説であり、一次資料が確認できない。
3	Chloroacetanilide herbicide-induced rat enterochromaffin cell tumors: a case study within the context of the IPCS framework, for analyzing the relevance of a cancer mode of action for humans	JOURNAL OF TOXICOLOGIC PATHOLOGY, 34(3), 213-222	2021	Yoshida, M	Food Safety Commiss, Cabinet off., Japan	DOI: 10.1293/tox.2021-0009	発がん性	原著	-	-	ラット	-	-	-	区分bに該当するため不要	クロロアセトアニリド除草剤のラット胃発がん機序に関するレビュー、リスク評価の際の補足データとして利用可能と想定。	6-1-4	定性的データ	・NOAEL/LOAELの情報なし。
4	Comparison of rat olfactory mucosal responses to carcinogenic and non-carcinogenic chloracetanilides	FOOD AND CHEMICAL TOXICOLOGY, 47(6),1051-1057	2009	Genter, MB et al	Univ Cincinnati	DOI: 10.1016/j.fct.2009.01.030	発がん性	原著	-	-	ラット	butachlor 3000 ppm in diet propachlor 3000 ppm in diet	-	-	区分cに該当するため不要	クロロアセトアニリド除草剤のラット鼻部腫瘍の発がん機序に関するマイクロアレイ遺伝子発現解析。エンドポイントがリスク評価の際の補足データとして利用可能とは判断できない。	6-2-6	定性的データ	・NOAEL/LOAELの情報なし。

※備考欄に、公表文献報告書における文献番号を記載した。

【事務局より】
各公表文献の扱いについて、案を作成しました。定量的データ、定性的データに分類した文献については、評価書案に記載しておりますので、そちらも併せて各文献の扱いについて御検討ください。